

※は、ロットNO表示位置を示します。
●この説明書は、必ず施工される方にお渡しください。

■施工される方へのお願い

●本説明書で使われているマークには以下のような意味があります。

▲注意…取付けを誤った場合に、使用者が中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

- つり車は本体に必ずねじ止めし、ガタツキがないように固定してください。本体が脱落するおそれがあります。
- 扉を閉める時は、扉の折れ曲がり部分に手を添えないでください。手をはさむおそれがあります。
- 扉へのもたれ掛かりは、扉がはずれて転倒しけがの原因になりますので、もたれ掛からないようにしてください。
- 扉の把手にぶらさがったり重量をかけないでください。扉が転倒してケガをしたり、把手が破損するおそれがあります。
- 上レールは仮固定されていますが、必ず指定のねじで躯体へ固定してください。本体が脱落するおそれがあります。

■施工上のお願い

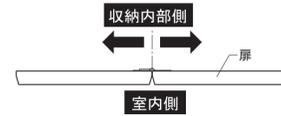
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きのドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれる場合があります。
- 本製品の組み立て・施工時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や垂れ下がり・ゆがみ等の原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます)
- 枠を取り付ける際、水準器・下げ振り等で水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取り付ける時には必ず接着剤を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤を塗布してください。
- 本製品は上つり方式のため、梁またはまぐさで重量を受けますので、扉重量に耐える断面の梁またはまぐさをご使用ください。
- 納品時に各部品・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず施工前にお買求め店までご連絡ください。(施工後の色調・不具合・キズ等による交換は出来ません。)
- 運搬・加工の際は、傷付けないように丁寧に取

- り扱ってください。また水・直射日光の当たる場所に、開閉状態で置かないでください。反り・ねじれの原因になります。
- 造作材・建具枠の下地材は、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用してください。湿潤材は使用しないでください。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから施工してください。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ず透き間をつくり、かい木を入れてください。かい木は合板等の乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に必ず防水処理をしてください。
- 枠の組立て後、ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損するおそれがあります。
- ミラータイプの本体は、1つの枠の中に1枚のみとってください。

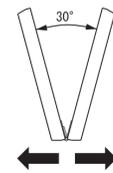
■扉の開閉操作上のお願い

●扉を開閉する際は、下記事項を守って操作してください。

●扉をフラットのまま移動させます。



●30°の角度で扉が一時固定するようになっていますので、この状態で移動させます。



※角度が30未満の状態では移動させないでください。この場合、動きがギクシャクしたり下部のローラーがレールから外れたりする場合があります。

■部品・部材の明細

■部材の明細

折れ戸本体	折れ戸用枠	折れ戸用下枠
●クローゼット本体	●上枠 ●上レール(上枠に仮固定済み) ●縦枠(2本)	●下レール ●下枠
●ロットNo.表示位置 収納内部側から見て左扉の左下部	●ロットNo.表示位置 室内側から見て右端のブランドラベル内	
		ケーシングセット
		ケーシング材(上用) ケーシング材(縦用)

■本体用部品

	つり車	皿タッピンねじ φ3.5×20 (つり車取付け用)	ガイドローラー	把手セット (ねじ付) (オーセントライン用)	調整スパナ	ピボット固定金具
W07	2	8	2	1	1	1
W12・16・18	4	16	4	2	2	2
W24	6	24	6	3	3	3
W33	8	32	8	4	4	4

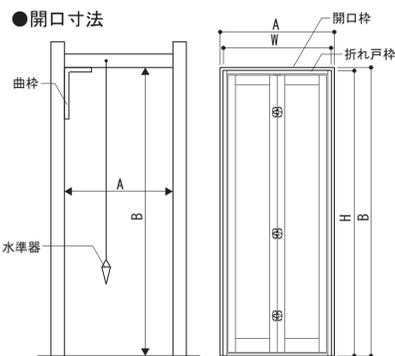
■枠用部品

	トラスタッピンねじ φ4×55 (枠組立て用 上枠躯体取付け用)	皿タッピンねじ 頭部シート色塗装 φ4×50 (縦枠躯体取付け用)	皿タッピンねじ φ3.5×20 (下レール取付け用)
W07	12	12	2
W12	13	12	3
W16・18	14	12	3
W24	16	12	5
W33	18	12	5

■開口部の確認

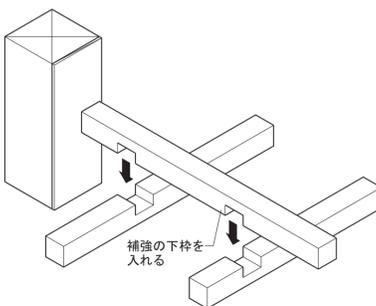
●開口部の水平・垂直を確認してください。
※開口部寸法が下記寸法になっていることを確認してください。

開口寸法A	製品寸法W+10 mm
開口寸法B	製品寸法H+5 mm



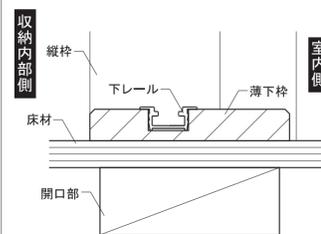
■下枠下地の確認

●枠材は捨て張り合板の上に施工するか、根太張り工法の場合は右図のように根太を入れて補強してから施工してください。下枠の破損や扉開閉不具合の原因となります。



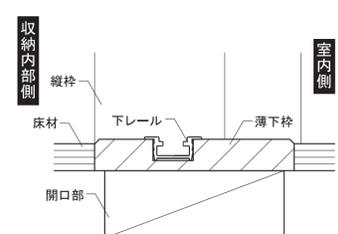
【床先張り(床載せ納まり)の場合】

●床材を張ってから枠を取り付けてください。



【床後張り(枠先付け)の場合】

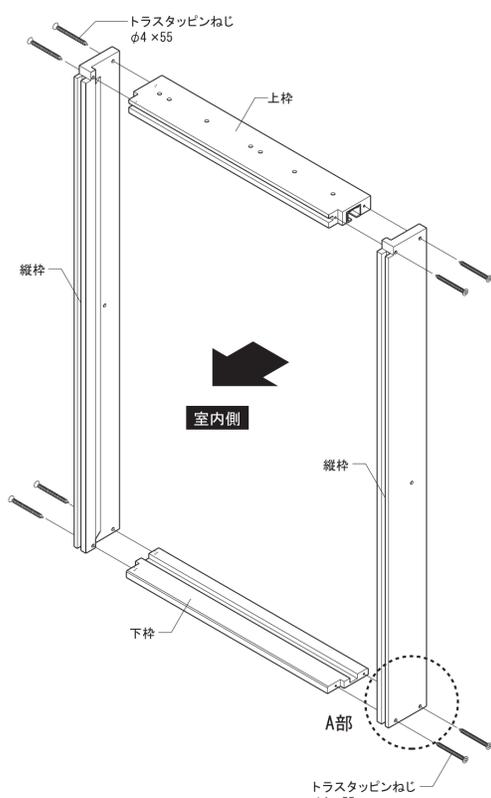
●枠取付け後、縦枠・薄下枠にそって床材を張ってください。



■取付け順序

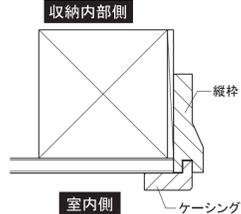
1 枠の組立て

【薄下枠を使用する場合】
※縦枠下部(A部)は切断せずに使用してください。
●下図のように各部材を組み合わせ、同梱のねじで固定します。



2 枠の取付け

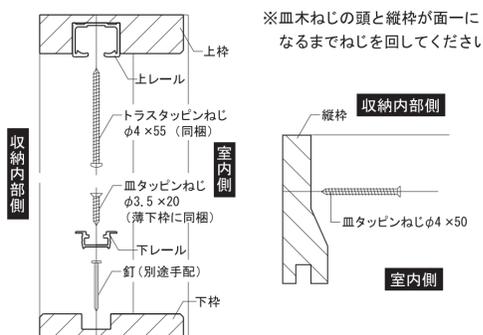
●組み立てた枠を開口部に入れます。ここで、縦枠にケーシングを差し込みます。枠の固定位置を確認します。
※ケーシングの足が短いため、後で調整することができません。このため、位置出しは確実に行ってください。
※ケーシングは、位置出しのためですから、固定はしないでください。
●上枠・下枠・縦枠を躯体開口部に固定します。



【お願い】
●枠の建付けはゆがみがないことを確認してください。ピボットタイプへ変更した時、本体の開閉操作が重くなる場合があります。

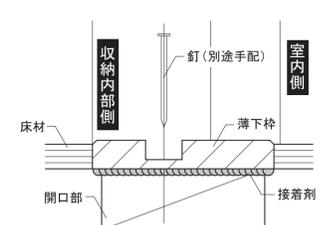
▲注意

●上レールは仮固定されていますが、必ず指定のねじで躯体へ固定してください。



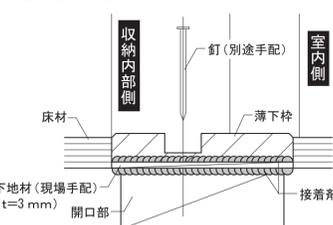
【床材厚さ12mm】

※必ず薄下枠に接着剤を付け、躯体に固定してください。



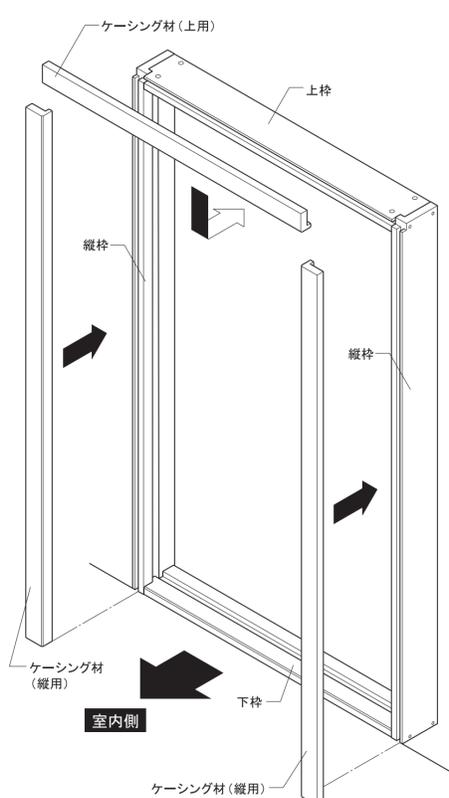
【床材厚さ15mm】

※必ず薄下枠と下地材に接着剤を付け、躯体に固定してください。



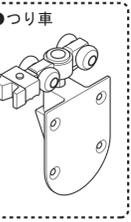
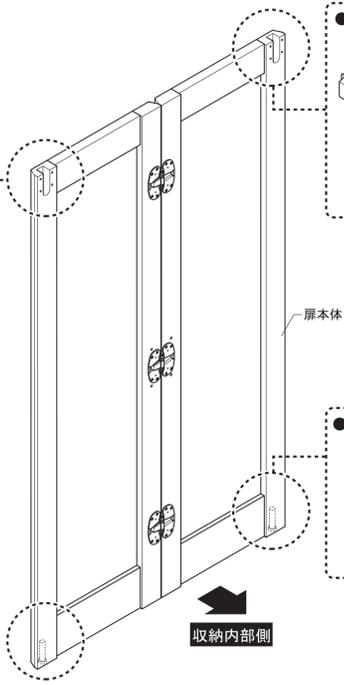
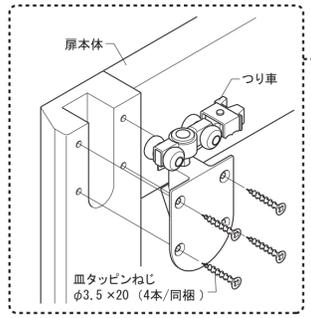
3 ケーシング材の取付け

※壁材・床材を仕上げしてからケーシング材を取り付けてください。
①別梱のケーシング材を現場寸法に合わせて切断します。
②枠のケーシング溝へケーシング材を差し込みます。
③ケーシング溝とケーシング材裏面に接着剤を塗布し、ケーシング材を固定します。

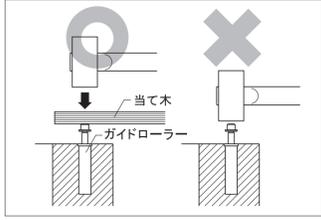


■本体のつり込み

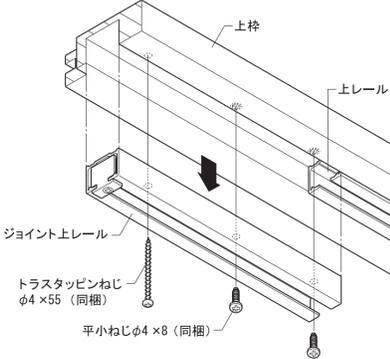
- ① 扉上部の切欠き部に、つり車を差し込み、皿タッピンねじで固定します。ガイドローラーを扉の加工穴に圧入します。
※ミラータイプの本体は、1つの枠の中に、1枚のみとしてください。



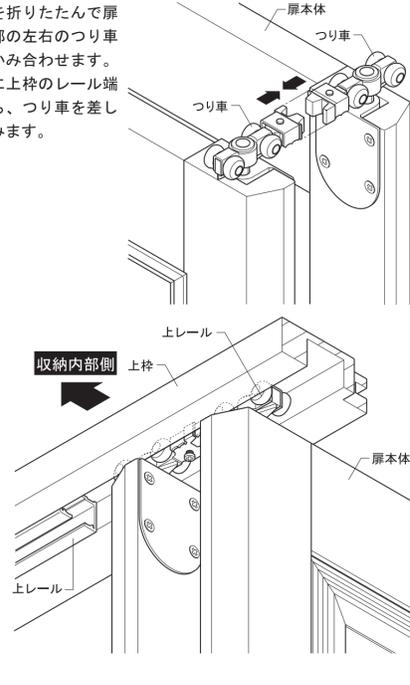
- ※ガイドローラーを圧入する際、樹脂部に当て木を使用してください。



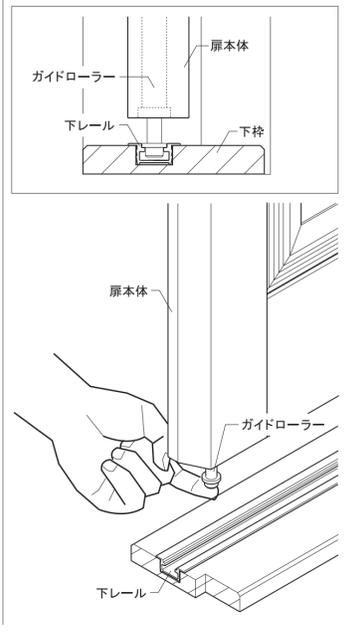
- ② 扉をつり込む前にジョイント上レールを取りはずします。



- ③ 扉を折りたたんで扉上部の左右のつり車をかみ合わせます。次に上枠のレール端から、つり車を差し込みます。

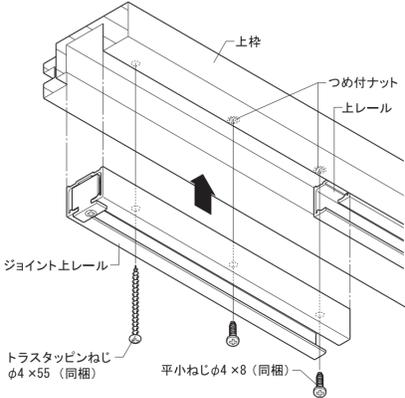


- ④ ガイドローラー先端を指で押さえ、下部レールへ差し込みます。



- ⑤ 扉をつり込んだ後、ジョイント上レールを取り付けます。(図-8)

- ※ジョイント部に段差が出ないように注意してください。

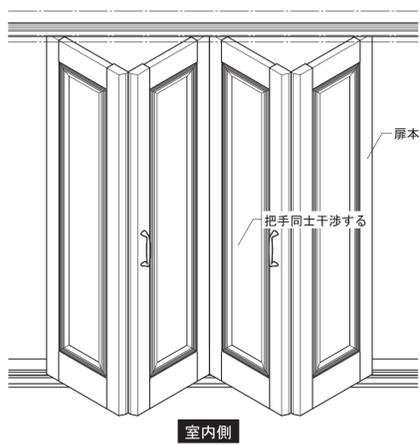


- ⑥ 把手を取り付けます。
2枚の扉の裏面に把手取付け用の下穴が中間位置まであけてあります。把手を取り付ける側の扉の下穴を貫通(φ4.5)してください。
下穴をあける際には、本体表側にて木をし、バリが出ないようにしてください。

- お願い
●あて木をしないで穴を開けると、バリが出る原因となります。

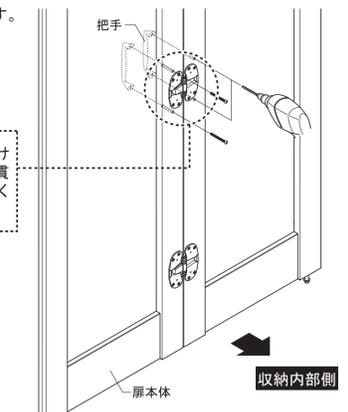
【把手の位置について】

- 1.) ミラー付扉の場合、ミラー側の扉には把手が付きません。
- 2.) 扉を複数枚つり込んだ場合、扉を折った状態での向き合わせになる扉それぞれに把手を取り付けると、開閉した時に把手同士が干渉します。製品にキズがつかますのでできるだけ向き合わせにならないように取り付けてください。



- ※把手は縦向きに付きます。

- 把手を取り付ける側の下穴を貫通(φ4.5)してください。

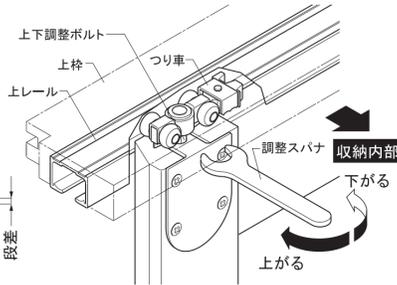


■調整

- ※本体の段違い(上・下)を調整します。

【段違い(上・下)の調整】

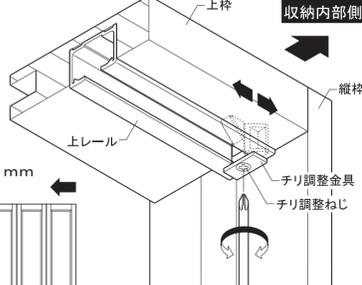
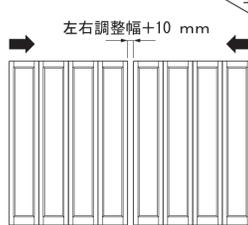
- 扉の取付け後、上下の目地が合っていない場合、左右のつり車の上下調整ボルトを付属のスパナで回し調整してください。(上下調整量±3mm)



【チリ(左・右)の調整】

- 扉間のチリが大きい場合、上レールの端部(左右)に付いているチリ調整金具で調整できます。チリ調整ねじをドライバーで回し、調整してください。チリ調整ねじを右に回すと、チリが小さくなります。

- 注)チリ調整金具は、上レールの左右に付いています(W07・08は、片側のみ)ので、左右均等に調整してください。



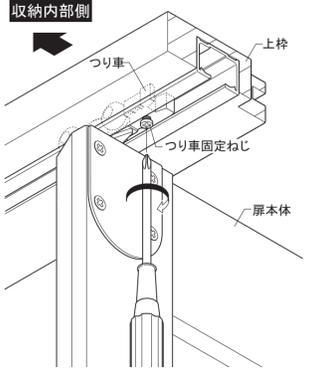
【フリー→ピボットの変更】

●扉上部の固定

- ① 扉本体をピボットにしたい位置まで移動させます。
- ② 固定したい扉側の上部つり車に付いている「つり車固定ねじ」を回し、しっかりつり車が固定されるまでねじを回します。
- ③ 扉を左右にゆずって扉が固定されたかどうかを確認します。

【ピボット→フリーの変更】

- ※つり車のつり車固定ねじを、ねじの回転が重くなるまでゆるめてください。開閉不具合の原因となります。



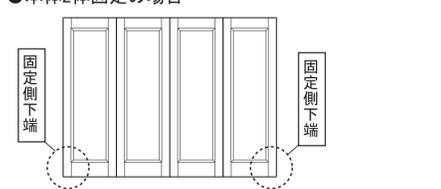
●扉下部の固定

- ※ピボットとして本体を使用する場合は、本体用部品セットに同梱のピボット固定金具を用いて本体固定側の下端を固定してください。

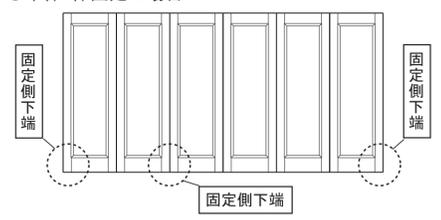
●ピボット固定金具使用数量

数量	数量
本体1体固定の場合	1個
本体2体固定の場合	2個
本体3体固定の場合	3個
本体4体固定の場合	4個

●本体2体固定の場合

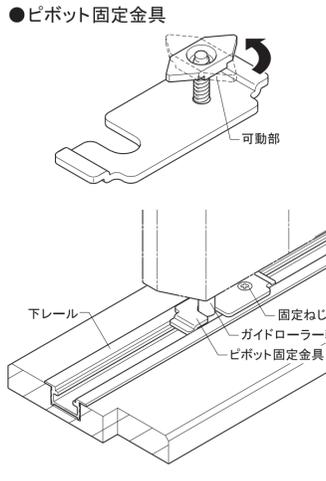


●本体3体固定の場合

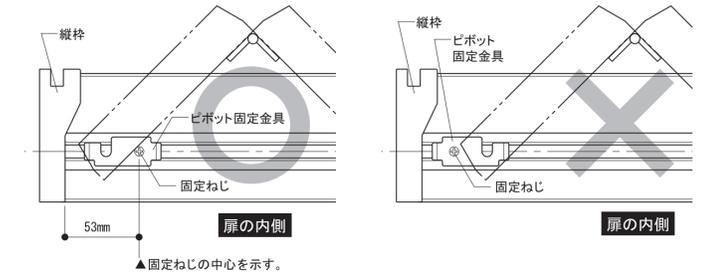


●ピボット固定金具

- ① 本体を正しい位置に移動させて、本体の垂直がでているか確認します。
- ② ピボット固定金具可動部を右図のように長手方向に向けます。



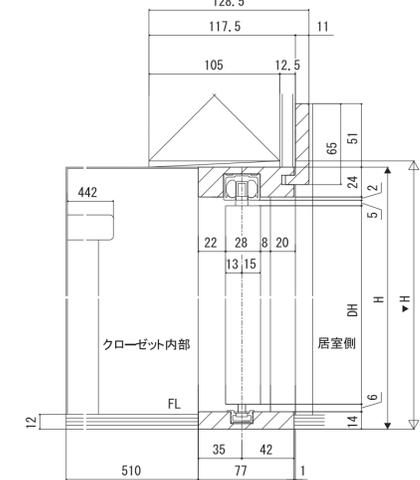
- ④ ピボット固定金具の取付け向きは、下図のように固定ねじが扉の内側になるよう、取り付けてください。
- ⑤ ピボット固定金具の固定位置は、下図を参照してください。



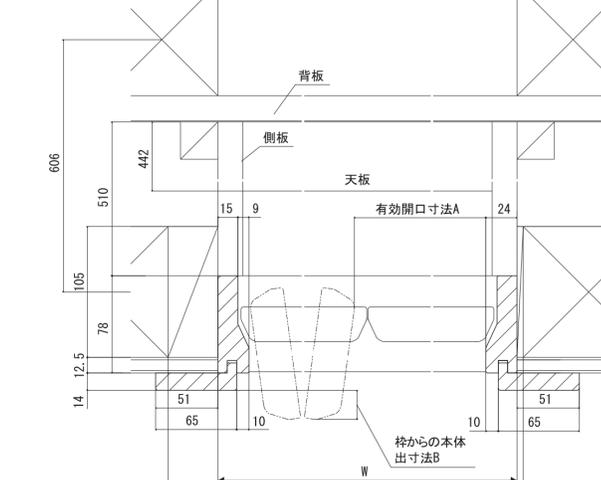
- ⑥ 固定ねじをプラスドライバーで右に回します。ピボット固定金具が動かないよう固定されたかどうか、確認してください。
※尚、再びピボットからフリーにするときは、固定ねじを左に回しねじをゆるめてピボット固定金具を回転させながら外してください。

■折戸納まり図

●縦断面図



●横断面図



W呼称(枠外寸法)	A寸法	B寸法
W07(734)	569	264
W12(1183)	893	200
W16(1643)	1353	316
W18(1823)	1533	361
W24(2448)	2033	316
W33(3253)	2712	316

基本寸法()	W呼称	07	12	16	18	24	33
	W (SW)	734 (699)	1183 (573)	1643 (803)	1823 (893)	2448 (803)	3253 (803)
H呼称	20	22					
H (DH)	2035 (1984)	2235 (2184)					